

|||||  
卒業論文要旨  
|||||

新幹線通勤・通学の実態  
—東海道新幹線に焦点を当てて—

一 條 直 子

この論文は、ここ2、3年で一般的になってきた新幹線通勤・通学の実態について書いたものである。

まずこのテーマを選んだ理由であるが、私自身が東海道新幹線で新幹線通学をしていたことがあって、私にとっては非常に身近なトピックであったからである。

第1章では、東海道新幹線について、現在ではこうして通勤・通学にも利用されるようになったが、当初はどのような目的で、またどのような背景があって誕生したのかを探ってみた。これは基本的には、東海道本線の輸送需要の増大による輸送力の行き詰まりが原因であるということが分かった。また、東海道新幹線の予想以上の輸送実績によって、新幹線という新しい鉄道が高く評価され、その後の東北・山形新幹線や上越新幹線の開業、整備新幹線構想の出現に大きく影響を与えたことにもふれた。

第2章では新幹線通勤・通学の現状についてデータ等を使って、検討してみた。まずは新幹線通勤・通学与大きく関わっていると思われる大都市交通の特性を文献を読んで把握し、その上で新幹線通勤・通学者数の推移等を見てみた。

大都市交通機関は、通勤輸送の需要に対応できるものではなくてはならないが、鉄道は大都市への通勤輸送を担う必要な交通機関としての役割を

果たしている。しかし、新幹線は鉄道の中では特別なものと認識され、通勤輸送に利用されるとは、開業当初は予想されなかったと思われるが、現在の状況は違う。ここ数年、新幹線利用者全体の輸送量はあまり伸びていないが、新幹線通勤者の輸送量は年々、高い伸び率で増加している。新幹線通勤者数は平成5年度には昭和59年度の10倍以上に達している。

第3章では、新幹線通勤・通学のより詳細な実態を知るために聞き取り調査を行い、その結果をまとめた。

新幹線通勤・通学を始めるきっかけになったことは個人個人、様々な事情があるようだった。時間的な余裕を優先するために新幹線通勤を始めた、家族と一緒に暮らしたために新幹線通勤をしていたりといろいろなケースがあった。新幹線で東京に毎日通うことについて、肯定的な意見もあれば、否定的な意見もあった。やむをえずという方もいて、そうした人はやはり否定的にとらえていたが、そういう人に限らず、毎日、長距離を高速で移動する身体的、精神的負担は少なからずあるのではないかという感想をもった。確かに新幹線通勤・通学という形態は、人々の生活の選択の幅を広げる結果にはなった。

いずれにせよ新幹線通勤・通学という新しい形態は今後、拡大していくものと思われる。